

# 町長発! “がんばる” トーキ

町長 上川元張



この冬は典型的な山雪で、氷ノ山は豊富な積雪に恵まれる一方、里は雪かきに追われることも少なく、心安らかな生活が続いています。今月は除雪対策の現状を取り上げます。

車道除雪については、国道、県道、町道と各道路管理者の役割分担のもと、管内の建設業者に委託実施しています。例年、国道29号は巻米口から下をこおげ建設(株)、上をやまこう建設(株)が分担、県管理の国道482号(巻米谷)と県道(諸鹿谷、吉川谷)はいずれも中一建設(株)が受託しています。特にスキー場のある巻米谷は重点除雪区間とされています。町道は、除雪ドーザー5台とロータリー除雪車1台の体制で、町内の中一建設(株)、(有)宮本組、八頭土木建築(有)に区域を分けて委託しています。また、歩道については、通学路を中心に、国道沿いは八頭土木建築(有)、駅前は観光協会、若桜橋周辺は近隣住民の方に委託しています。

各建設業者は、冬場の町民生活の安全と利便を確保するため、夜間早朝の出動や待機など、除雪最優先の体制を取っています。若桜エリアは走りやすいと各業者の除雪技術の高さには定評がありますが、業界全体で人員不足の中、人材の確保育成が課題となっています。家屋が連坦する若桜宿内では、散

水式の融雪装置で除雪負担の軽減を図っています。昭和53年に県道若桜停車場線(本通り)で導入して以来、エリアを広げ、現在では、県道1基、町道5基のポンプで宿内ほぼ全域をカバーしています。また、宿外にも吉川・大野・加地・糸白見・浅井・上高野・高野・巻米・諸鹿の各集落内の町道の一部にも設置しています。

本通りの融雪装置は設置から45年が経過し、老朽化が進んでいます。昨年は、ポンプの故障で車両通行に支障をきたしました。現在、来シズンの供用に向けて、県で新ポンプの調達と合わせ、安定的な水量確保のため、庄ノ瀬の親水公園用水路からの導水工事を進めています。近い将来には、散水施設の全面的な更新も必要となります。

また、集落内道路の機動的な除雪のため、小型除雪機を町で購入して希望する集落に無償貸与しており、現在約30集落が活用しています。集落内の助け合いの精神で運用しているただいていますが、各集落とも高齢化によるオペレーター不足が課題となりつつあります。

人材不足や施設の老朽化など課題には、町民の冬場の雪のストレスを少しでも軽減し、町内に住み続けているだけるよう、将来も見据えつつ万全の対策を講じていきます。